



Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第9回

「異なるものをつなぐ、比べる： 地域研究と開発研究の狭間で考える」

受田 宏之 総合文化研究科 国際社会科学専攻 教授

司会 國分功一郎（総合文化研究科 超域文化科学専攻）

討論者 田辺明生（総合文化研究科 超域文化科学専攻）
伊達聖伸（総合文化研究科 地域文化研究専攻）

使用言語 日本語

日時・会場

2021年1月19日（火） 14:55 - 16:40

Zoom Webinar（下記URLからご登録ください。）

<http://bit.ly/3oYQD3H>

要旨

都市に移住した先住民、彼らを支援するNGOや社会運動。インフォーマル経済。マゲイという植物を軸に多種多様な作物を生産する小規模農家。麻薬カルテル。大学院は経済学研究科だったにもかかわらず、メキシコをフィールドに、半ば偶然、半ば自発的に、人類学者が好むような人びとを研究してきた。だが、メキシコは同時に、1980年代の債務危機を経てテクノクラートが大きな影響力を持つようになり、NAFTA（北米自由貿易協定）に国運をかけ、効率性を重視した貧困対策を他国に先駆けて広く導入した国でもある。この多様な社会において私が考えてきたことや失敗を通じて、地域研究とグローバル・スタディーズの意義と手法について論じてみたい。

主催 東京大学グローバル地域研究機構 (IAGS)